

## 平成26年度 動植物の確認調査

東海旅客鉄道株式会社

1

### 平成26年度 動植物の確認調査

---

- ① 南アルプスにおいて実施した特別な調査
  - 大井川水系源流部及び支流部における確認調査
- ② その他の調査結果
  - 鳥類(希少猛禽類)の確認調査
  - 昆虫類、魚類、底生動物の確認調査
  - 植物(保全対象種)の確認調査
- ③ 平成27年度 調査計画(案)

(目次参照)

## 平成26年度 動植物の確認調査

---

- ① 南アルプスにおいて実施した特別な調査
  - 大井川水系源流部及び支流部における確認調査
  
- ② その他の調査結果
  - 鳥類(希少猛禽類)の確認調査
  - 昆虫類、魚類、底生動物の確認調査
  - 植物(保全対象種)の確認調査
  
- ③ 平成27年度 調査計画(案)

3

## 南アルプスにおいて実施した特別な調査について

---

### これまでの沢調査

- 山岳トンネル上部の沢周辺の代表的な箇所において、重要な種の生息・生育状況を確認



### 【大井川水系源流部及び支流部における確認調査】

- 南アルプスの自然環境の重要性に鑑み、これまでの調査箇所に加え、**流量の少ない源流部や支流部を含め、アプローチが可能な全ての沢において重要な種の生息・生育状況を確認**

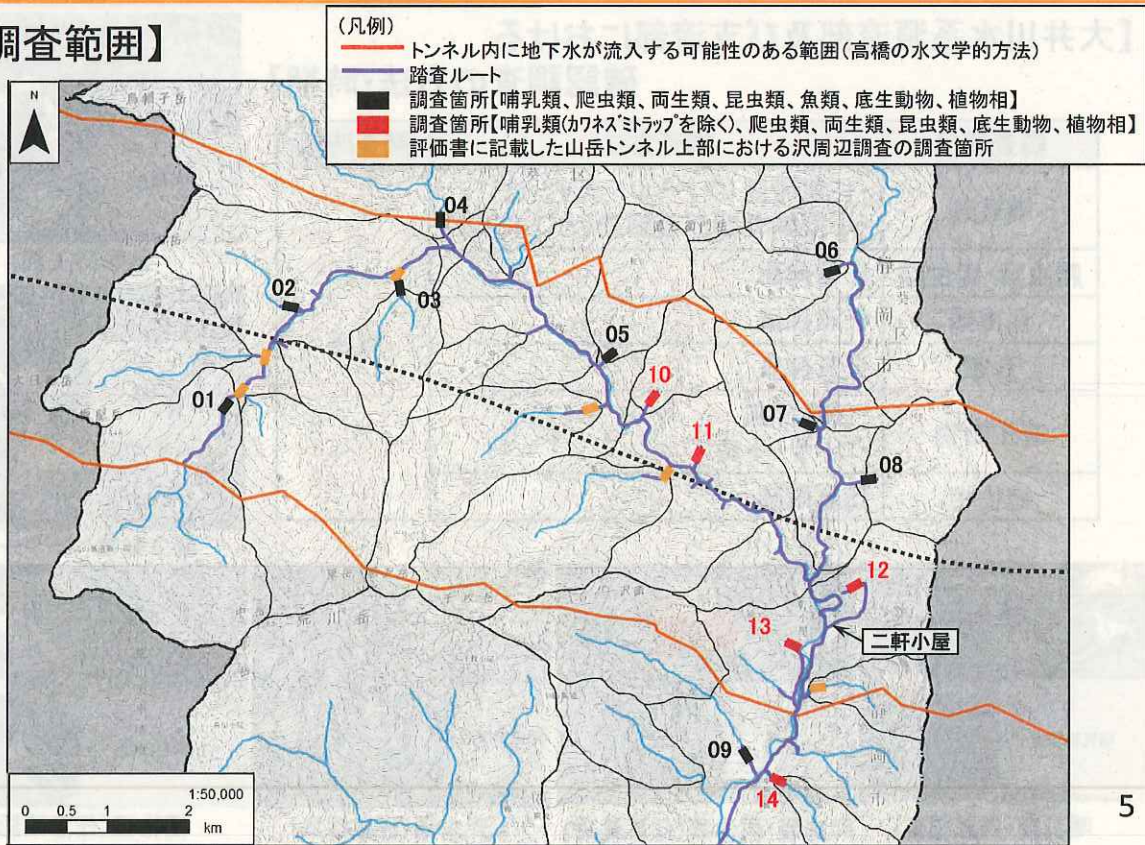
### (調査項目)

哺乳類、爬虫類、両生類、昆虫類、魚類、底生動物、植物相

4

# 南アルプスにおいて実施した特別な調査について

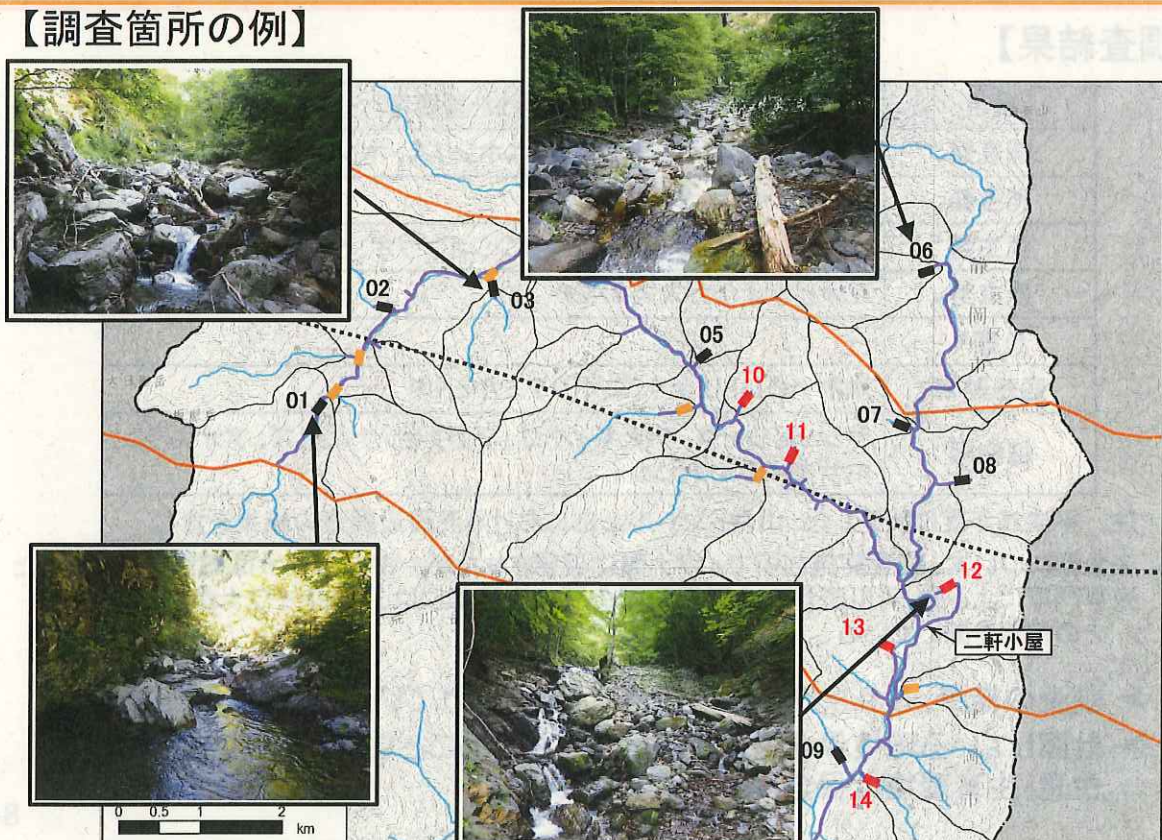
## 【調査範囲】



5

# 南アルプスにおいて実施した特別な調査について

## 【調査箇所の例】



6

## 南アルプスにおいて実施した特別な調査について

### 【大井川水系源流部及び支流部における 確認調査の方法・時期】

調査項目	調査方法	調査時期
哺乳類	・任意確認(フィールドサイン法) ・小型哺乳類捕獲調査(カワネズミ)	秋季
爬虫類・両生類	任意確認	
昆虫類	任意採集	
魚類	任意採集	
底生動物	・任意採集 ・コドラート法	
植物相	任意確認	



魚類調査

魚類(タモ網)



底生動物調査

底生動物(コドラート法)



哺乳類調査

哺乳類(捕獲調査)



爬虫類・両生類調査

爬虫類・両生類(任意確認)



昆虫類調査

昆虫類(任意採集)



植物相調査

植物相(任意確認)

## 南アルプスにおいて実施した特別な調査について

### 【調査結果】

項目	確認された重要種
哺乳類	カワネズミ、ニホンカモシカ、ニホンリス、ホンドモモンガ
爬虫類	ヒガシニホントカゲ
両生類	ヒダサンショウウオ、ハコネサンショウウオ、ナガレタゴガエル
昆虫類	キオビホオナガスズメバチ
魚類※	—
底生動物	オオナガレトビケラ、ニホンアマカモドキ
植物相	ヤシヤビシャク、サナギイチゴ、チョウセンナニワズ、アオキラン、ホザキイチヨウラン

注. 平成26年度に実施した、山岳トンネル上部における沢周辺調査の結果を含む

※魚類について、調査実施箇所でイワナ類は確認されたが、ヤマトイワナは確認されなかった

※専門家によると、河川流量への影響範囲の更に上流部には、ヤマトイワナが生息しているとの情報を聞いている

- 調査の結果、これまでの現地調査でも確認されている種が確認された
- 計画している環境保全措置を確実に実施することで、確認された種の生息・生育環境は保全されると考えている

## 平成26年度 動植物の確認調査

- ① 南アルプスにおいて実施した特別な調査
  - 大井川水系源流部及び支流部における確認調査
- ② その他の調査結果
  - 鳥類(希少猛禽類)の確認調査
  - 昆虫類、魚類、底生動物の確認調査
  - 植物(保全対象種)の確認調査
- ③ 平成27年度 調査計画(案)

9

## 鳥類(希少猛禽類)の確認調査

### 【目的】

- 事業により影響の可能性のあるペアについて、生息状況及び繁殖状況を継続的に確認

### 【調査方法・時期】

調査項目	調査方法	調査時期
鳥類(希少猛禽類)	定点観察法	繁殖期 (平成26年4月～8月) (平成26年12月～ )
	営巣地調査	
	繁殖状況調査	

### 【調査範囲】

- 調査範囲は、過去の調査で個体が確認された範囲を対象に設定



希少猛禽類(定点観察法)

10

## 鳥類(希少猛禽類)の確認調査

### 【調査結果】

平成26年4月～8月

ペア名	確認状況
イヌワシ	・繁殖は確認されていない
クマタカ(Aペア)	・既知の営巣地での繁殖を確認したが、途中で雛は巢内で確認されなくなった
クマタカ(Bペア)	・繁殖は確認されていない

平成26年12月

ペア名	確認状況
イヌワシ	・2羽同時飛翔や枝持ち飛翔が確認された
クマタカ(Aペア)	・V字飛翔やペアによる並びとまりが確認された
クマタカ(Bペア)	・旋回ディスプレイや波状飛翔が確認された

- 工事を開始するまでの間も継続的に確認し、専門家の意見を踏まえ必要に応じ環境保全措置を実施し、事業による影響を低減するよう努める

11

## 昆虫類、魚類、底生動物の確認調査

### 【目的】

- 静岡県環境影響評価審査会等で生息に関する情報提供があった種について、生息状況を確認

### 【調査方法・時期】

調査項目	調査方法	調査時期	
昆虫類 (タカネキマダラセセリ、クモマツマキ チョウハヶ岳・南アルプス亜種、ミヤマシロチョウ、オオイチモンジ)	個体の確認	・任意採集	春季、夏季
	食草・食樹の確認	・コドラート法	夏季
魚類	・任意採集	春季、夏季、秋季	
底生動物	・任意採集 ・コドラート法	春季、夏季、秋季	

### 【調査範囲】

- 非常口(山岳部)、工事施工ヤード、宿舎、発生土置き場及びその周囲250mの範囲並びに林道東俣線全線、特種東海製紙株式会社の井川社有林内管理道路及び道路端から50mの範囲

12

## 昆虫類、魚類、底生動物の確認調査

### 【昆虫類(チョウ)の調査結果】

項目	確認された重要種
昆虫類(チョウ)	クモツマキチョウ八ヶ岳・南アルプス亜種、 ミヤマシロチョウ

### 【昆虫類(チョウ)の食草・食樹の調査結果】

対象とするチョウ	確認された食草・食樹
タカネキマダラセセリ※	—
クモツマキチョウ 八ヶ岳・南アルプス亜種	ミヤマハタザオ(アブラナ科) ヒロハコンロンソウ(アブラナ科)
ミヤマシロチョウ	アカジクヘビノボラズ(メギ科)
オオイチモンジ	ドロノキ(ヤナギ科)

※タカネキマダラセセリについては、これまでの現地調査で個体の確認はされておらず、食草も確認されなかった

13

## 昆虫類、魚類、底生動物の確認調査

### 【魚類、底生動物の調査結果】

項目	確認された重要種
魚類	アマゴ
底生動物	オオナガレトビケラ、ニホンアミカモドキ

※魚類について、調査実施箇所ではイワナ類は確認されたが、ヤマトイワナは確認されなかった

- 調査の結果、これまでの現地調査でも確認されている種が確認された
- 計画している環境保全措置を確実に実施することで、確認された種の生息環境は保全され则认为している

14

## 植物（保全対象種）の確認調査

### 【目的】

- 移植・播種を計画している保全対象種について、生育状況を確認

### 【調査方法・時期】

調査項目	調査方法	調査時期
移植・播種を計画している重要な種 (全11種) チョウセンゴミシ、ナガミノツルキケマン、ナベナ、カワラニガナ、ヒカゲシラスゲ、ホテイラン、イチヨウラン、アオキラン、ホザキイチヨウラン、カサゴケモドキ、ヤマドリタケ	任意確認	春季、夏季、秋季

### 【調査範囲】

- 非常口(山岳部)、工事施工ヤード、宿舎、発生土置き場及びその周囲100mの範囲並びに林道東俣線全線、特種東海製紙株式会社の井川社有林内管理道路及び道路端から50mの範囲

15

## 植物（保全対象種）の確認調査

### 【調査結果】

項目	確認された保全対象種
高等植物	チョウセンゴミシ、ナガミノツルキケマン、ナベナ、カワラニガナ、ホテイラン、イチヨウラン、アオキラン、ホザキイチヨウラン
蘚苔類	カサゴケモドキ
キノコ類	ヤマドリタケ

- 調査の結果、移植・播種を計画している保全対象種の10種が確認された
- 得られた結果について専門家の助言を踏まえ、移植・播種について計画を検討する

16



## 平成26年度 動植物の確認調査

---

- ① 南アルプスにおいて実施した特別な調査
  - 大井川水系源流部及び支流部における確認調査
  
- ② その他の調査結果
  - 鳥類(希少猛禽類)の確認調査
  - 昆虫類、魚類、底生動物の確認調査
  - 植物(保全対象種)の確認調査
  
- ③ 平成27年度 調査計画(案)

17

## 平成27年度 調査計画(案)

---

### 【確認調査】

事後調査・モニタリングに加えて、下記項目についても調査を実施する

- 希少猛禽類について、工事を開始するまでの間も継続的に調査を実施
  
- 植物で移植・播種を計画している重要な種について、移植先の生育環境調査を実施  
(全11種: チョウセンゴミシ、ナガミノツルキケマン、ナベナ、カワラニガナ、ヒカゲシラスゲ、ホテイラン、イチヨウラン、アオキラン、ホザキイチヨウラン、カサゴケモドキ、ヤマドリタケ)
  
- 平成26年度に実施した確認調査のうち、山岳トンネル上部における沢周辺調査での両生類の早春季調査を実施

18